

55. 身近にあるものでバスボムを作ってみよう

同志社大学 理工学部 わたしのサイエンスプロジェクト

1. 子どもたちへのメッセージ

皆さん、湯船に泡の出る入浴剤を浮かべてつい見とれてしまったことはありますか？

本実験では、自分の手で身近にある材料からバスボムを作る体験を行います。なぜ泡が出るのだろう、なぜ粉から一つの固まりができるのだろう、といった化学の仕組みを学ぶことができます。ホットケーキを焼くときに出てくる気泡とのつながりが知れるかもしれません！バスボム作りを通して、一緒にその泡の正体を学びましょう！

2. よういするもの

重曹 大きじ3、クエン酸 大きじ1、計量スプーン（大きじ）、フリーザーバッグ、好きな色の食用色素、少量の水、霧吹き、ラップ、輪ゴム

3. やりかた

- ① 事前に測っておいた重曹とクエン酸をフリーザーバッグに入れ、混ぜる。
- ②好きな色の食用色素を入れ、色をつける。
- ③ 握って固まるまで、水を霧吹きで少しずつ加える。
- ④ ラップにのせ、ラップの端を絞りながら形を丸く整える。
- ⑤ 2、3日風通しのいい部屋で乾燥させる。

4. わかること

重曹に含まれる成分とクエン酸に含まれる成分が水の中で反応すると、泡（二酸化炭素）が発生します。

5. 気をつけよう

バスボムを口に入れたり、薬品が目に入ったりしないように注意をしましょう。実際にお風呂に入れるかどうかは保護者の方と相談し、自己判断をお願いします。安全面には問題がありませんが、お風呂に入れてもにおいや効能はありません。また、皮膚に刺激がないことを確認してから使用するようにしてください。バスボムを使用する際は念のため換気をしてください。バスボムが乾燥するまでに数日かかるため、その間は触らないようにしましょう。

6. 問い合わせ先

同志社大学 松川真美 TEL 0775-65-6292

mmatsuka@mail.doshisha.ac.jp

7. 参考になる資料

Honda Kids 『バスボムをつくろう』

<https://www.honda.co.jp/kids/jiyuu-kenkyu/lower/17/>